

令和5年度 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： 肝吸虫感染を起因とする胆管がんの PDX の開発と個別化医療への展開

研究開発代表者名： 岡田 誠治（熊本大学）

研究開発代表者らは、メコン川流域で大きな健康医療上の問題となっている肝吸虫感染による胆管がんを起因とする貴重な PDX と培養細胞株を複数樹立し、PDX 作成に最適な無毛超免疫不全マウスの樹立にも成功した。また、それらを活用したオミックス解析を進め、タイへ技術移転を着実に行った。上述の成果は、いずれも医療分野の進展・新技術の開発に繋がるものであり、タイ側の研究力を高めることに貢献した。さらに、研究開発期間中に多くの若手研究者の相互交流が行われ、順調に共同研究の成果が論文発表されており、優れていると評価できる。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症による渡航制限のため進捗が遅れたという点は十分考慮すべきであるものの、樹立した PDX のオミックス解析が継続中であり、病態解明や個別医療への展開は今後の成果が望まれる。また、米国との連携の意義が見えにくく、細胞周期阻害剤の探索に関する説明が不明瞭であった。本研究では、胆管細胞株が膵癌類似型と肝癌類似型とに分類されることを明らかにしたが、本分類が発がん要因、治療反応性、予後等とどのように関連するのか、今後更に解明されることを期待する。